

114
A 4140



伏テ惟ルニ慎終追遠ハ人世ノ善事與滅繼絶ハ
國家ノ隆興ナリ按スルニ南都興福寺ハ上世藤原
氏ノ創建ニ係リ仰テ

列聖ノ寶祚ヲ祈リ俯シテ蒼生ノ興樂ヲ希ヒ以テ
同氏闔族ノ冥福ヲ冀圖スルノ一大巨刹タリ故ニ

歷代

聖主ノ敷眷淺カラサリシコト載セテ史乘ニ詳ナリ
今敢テ縷陳ヲ要セス然ル故ニ千載ノ久キ搢紳
武弁ノ徒ハ素ヨリ皇族ニ於テモ亦

其ノ塔中ニ在住セラル者有ルナリ明治維新ノ

後還俗云云ノ令出テシヨリ該刹ノ僧侶殆々寺

門ヲ出テ去リ羅列ノ子院亦隨テ鐘磬ヲ絶チ

巍々タル佛堂供養人無ク空ク猶鼈ノ棲ニ化シ

天正十一年四月
大隈侯爵邸書



千古ノ壯觀ヨラ追テ頽敗シ一山舉テ廢滅ニ屬ス
苟モ人心有ル者誰レカ痛惜セサランヤ况ヤ光勝ノ
如キ藤原氏ノ後裔ニ列リ且ツ職ヲ累世佛門ニ
奉スル者ヲヤ一念此ニ及フ毎ニ實ニ悲歎ニ堪サル
者有リ若シ忍ニテ為ス無ク默シテ言ハスンハ
啻ニ

列聖ノ恩眷ニ負キ祖先ノ慈訓ニ辜クノミナラス
即チ佛門ノ罪戾者タルヲ免レサルヲ恐ル故ニ微
カヲ顧ニス僭越ヲ憚ラスシテ法燈ノ既ニ絶エ巨
刹ノ將ニ覆ラントスルヲ支エ以テ

列聖在天ノ靈祖先地下ノ魂ヲ安ヒテトヲ希圖
ス冀ハクハ

朝廷 光勝ノ哀情ヲ憫察シ賜ヒ特典ヲ以テ該寺

○奉テ

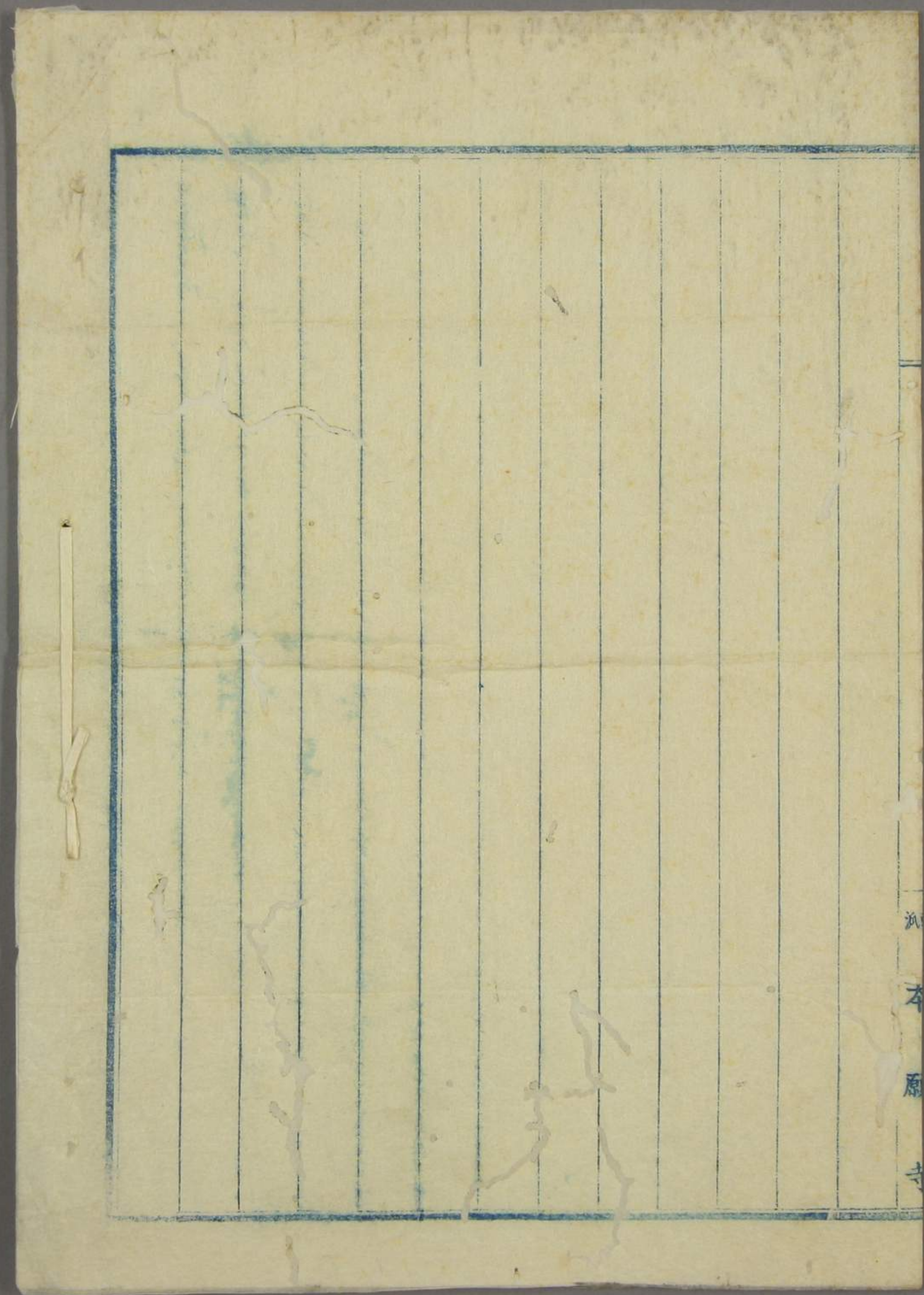
ヲ。光勝ニ下シ賜ハ、心カノ及フ所ヲ好シ一宗ノ徒弟
ト共ニ供養ヲ六時ニ怠ラス堂宇ヲ永年ニ保タントス
是レ獨リ光勝ノ悲痛ヲ解キ祖先ノ意思ヲ慰ハルノミ
ニ在ラス又以テ内國ノ一勝區ヲシテ其美觀ヲ異
日ニ保存セントスルノ丹誠ニシテ亦是レ慎終追遠
ノ旨ニ遵ヒ興滅繼絶ノ典ヲ補フノ一端ナランカ敢テ
不敏ヲ顧ミス哀請悃願ス恐懼無已

京都府華族

東派本願寺住職

明治十三年三月

大教正大谷光勝



汎
本
原
寺